

福島交流登山

原発被災地視察&二ツ箭山

山行日 2018年9月15日～16日

コース 15日(土) 松戸 5:45ー常磐道ー相馬 IC10:00ー宿夕鶴 10:30/11:00ー

原発被災地視察ー夕鶴 16:00 夜 講演会&交流会

16日(日) 宿 8:00ー二ツ箭山登山口 10:00ーズ張場 10:45/11:00ー男体山と女体山

鞍部 11:40ー女体山山頂 12:00/12:35ーズ張場 13:15/13:25ー登山口 14:20

福島に来てくなんしょ！（福島県連企画）

労山ニュースの一部が目にとまる。相馬に集合して原発被災地視察して、翌日阿武隈山系の山を選択して登る計画。

私は福島出身で3・11の時、父の葬儀で実家に居りあの地震を体験し、原発で避難した友人もおり、ぜひこの機会に行こうと思った。計画を公表したら予想外に7人の参加者が集まり、私の友人1名加わり8人で参加してきました。一人一人が感じた声です。

15日(土) 雨のち晴 原発被災地視察

震災から7年半余りの月日が流れ、報道で何回も目にした映像とは、かけ離れた原発被災地視察は、貴重な体験でした。（一部の報告です。）

1 原発20k圏内の希望の牧場 汚染肉牛が約300頭、牧場で命が尽きるまでお世話をされている吉沢さん。東電、政府は殺処分して風化させ、なかったようにしたいが、牛の所有者の殺処分同意がなければできない。原発の怖さ、真実を語らない政府。異様な臭いです。

1 平な土地にはフレコンバック（汚染物が入っている黒い袋）があちら、こちらに山のように積まれているが、20k圏内に入るとフレコンバックの山の数は計り知れない。塀で囲みズート、ズート続いていた。

1 20k圏内の農耕地は太陽光パネルが延々と並び、ゼネコン、政府、企業が運営している

1 立派な小学校は4校を、まとめて1校にしても、帰還者が少ないので新1年生は0人。

1 宿（夕鶴）にて なりわい裁判と福島のこれから の講演がありました。

●コントロールできない化け物を、今でも再活動に向けているので恐怖です。異常気象、自然界の変化は想定できません。原発事故は、収束できないのではないかとすると、気持ちが重くなりました。

今回の福島の旅は、中身の濃い有意義な2日間でした

震災の年は、山の会で気仙沼に応援に行きヘドロの掻き出し等しました。

7年も経過したのに、福島の現実には原発と津波の二重苦を抱えたままでした。

帰りたいのに帰れない故郷、原発さえ無かったら…。

被災地を巡りながらいろいろ考えさせられました。

被災地視察で復興が進んでいない現状に苛立ちを覚えました。
原発さえなかったらこの自然豊かな土地で楽しい生活が続いていた筈です。
さぞかし無念なことでしょう。

ただ、一つほっこり安堵したことは、海岸すぐ近くの請戸小学校の先生、生徒全員が助かったことです。地震直後、先生の的確な判断ですぐに非難しました。
歩けない子供は先生がおんぶして、上級生が下級生の手を引き 3 キロ山に向かって逃避行です。全員避難した後、学校はもとより歩いてきた道路も畑の道も津波が押し寄せました。

「20年は帰れぬと言ふに百歳の母は
家への荷をまとめおく」

(帰還困難区域の大熊町から会津若松に避難した男性の短歌です)

数多の重い現実を見聞きした中でショックだったのは ≪ 原発事故は人災！ ≫
福島第一原発のある付近は 津波被害面積の少ない所との事
原発を建設する所だけ 海拔 30m の台地を 10m まで下げた。



原発を冷やすために 多量の海水をくみ上げる
必要があり、コストダウンの為。

そこで高さ 15m の津波に襲われ 全電源を喪失
その為冷却装置が働くなり 原子炉の爆発
事故につながりました。

この地域は東北電力管内なので 首都圏や関東
地方の電力を賄ってきた。

太陽光パネルが原発事故により 現在および将来
に向けても利用困難になった土地に 沢山建設
されていた。

売電収入は農業復興と地域再生のための原資とか。風力発電も今年から 3 基稼動。

仮置場 広い田んぼの真ん中に 黒いフレコンバックに 1 トンの除染物が詰められ
累々と置かれていた。バックの耐性は 3 年。又汚染が始まっていないかと心配です。
まだまだ除染は続いており 5cm 削り取っては 栄養分のない山土 5 cm を入れていく。作物
はすぐには収穫できないそうです。山は除染していない。

家の解体 浪江の町は一部避難解除になり、住宅の解体工事が始まっており、3800 戸の
家が、国の費用で壊されていきます。

住まなくなった家は 野生動物に荒らされていた。

● 沢山の問題が山積です。国、地方自治体の復興事業がちぐはぐで、被災者の要望を汲み
取るのも大変難しい！ジレンマを感じた視察でした。

数年前の千葉県連ボランティアから 2 度目でしたが、一部復興はあるものの、まだまだ
被災の跡が多く残っていました。南相馬の小高区では児童数の減少で区内の 4 つの小学校
が一つの新校舎で学んでおり、門柱に 4 校の名前が記されていたのには、胸を突かれる。

● 改めて福島原発被害への取り組みは、最近の災害列島とも言える日本全体の問題でもあ
ると感じました。

福島の実現を再認識しました。当事者の気持ちを思うととてもつらいです。いつも心の隅に原発の重みを感じていますが、色々な報道に心がぐれそうになります。私たちの生活は福島の人達の犠牲の下で成り立っていると心に刻みました。福島ของ皆さんが早く安らかに暮らせる様にと思っています。

相馬の現状は“復元途中 道遥か遠きけり”その中、感動で胸が詰まる話。校長先生達と生徒による請戸小学校の避難実話です。とっさの判断で全員の命が救われました。けれど希望の牧場では未来は見えてきませんでした。

16日(日) 晴 二ツ箭山

交流山行は相馬散歩会、郡山労山、名古屋山岳会の方々とワイワイ、ガヤガヤと仲間と楽しんだ山行でした。2014年4月に女体山に登った時、岩に映えるアカヤシオに感動した事。月山が赤に染まっていた事も。今回は前日の雨で岩苔が滑りやすく、慎重に歩く。危険な箇所は郡山労山の方のアドバイスがあり、心強かったです。4年前はさほど怖さを感じなかったのに、今回は怖かった。体重も増えたし、歳だね。

「鎖場があるよ」と聞いていましたが、想像以上の崖あり、沢ありでいつ転ぶかと、とても緊張しました。でも事故もなく、かなりの速さで下山。4時間程の山行ですが、スリルあり、内容の濃い山でした。楽しかった！

沢登りから始まり、尾根を突き上げた先の女体山の厳しい岩場と変化に富んだ楽しい山でした。福島県連の方々や愛知の仲間と、山行を共有できたのが何よりでした。

30mある鎖場“ワァー凄い！”行くか、止めるかの選択でしたが、恐らく次の機会は無いただろうと思い、無心で登りました。山の会の皆さんは平静でした。流石です。私はただただ「登ったヨ！」という言葉の重みを得たかったのかも・・・久しぶりの達成感でした。

相馬散歩会の案内で、全員が女体山に登り景観を楽しみました。自然の素晴らしさを感じながらも、手放しでは喜べない複雑な思いを残しながら帰途に着きました。

